

経営改善計画の取組について

1. 平成23年度経営改善計画達成状況

(単位:百万円)

	計画値(A)	実績(B)	計画達成状況	
			B-A	B/A(%)
輸送人員(人/日)	90,200	84,700	▲5,500	93.9
運輸収入	6,900	6,411	▲489	92.9
運輸雑収	1,760	1,642	▲118	93.3
人件費	1,712	1,591	▲121	92.9
経費	2,948	3,060	112	103.8
営業損益	▲1,364	▲1,870	▲506	62.9
経常損益	▲4,148	▲3,936	212	105.1
当期損益	▲4,153	▲3,943	210	105.1

2. 取組状況

(1) 増客増収

■ 輸送人員の増加

	22年度	23年度		31年度
数値目標	86,700人/日	90,200人/日	➔	131,000人/日
実績	85,100人/日	84,700人/日		—

PR活動・ 営業活動 の強化

安全・安心への取組

- 各種訓練の実施
→ 列車火災合同訓練、列車停止手配訓練など
＜鉄道等運転無事故事業者表彰の受賞（10年連続5回目）＞

運賃の多様化

- SR東京メトロパスの発売【通年】
→ 発売枚数30,676枚 運輸収入1,757万円
- 一日乗車券の発売【32日間】
→ 発売枚数3,165枚 運輸収入197万円
- しらこぼと往復割引乗車券の発売【夏季期間】
→ 発売枚数3,032枚 運輸収入143万円

駅ポテンシャルを最大限に活用

イベントの開催・開発

- 沿線ハイキングの開催
→ 全3回 参加者3,071人
- 10周年記念車両基地見学会の開催
→ 10/22 参加者2,146人
- みなとみらい号の運行
→ 12/24 『浦和美園駅 ⇒ 元町・中華街駅』

駅の賑わいづくり

- 鯉のぼり・七夕・クリスマスツリーの飾りつけ
→ 全7駅
- 10周年記念ヘッドマーク列車の運行
→ 全10編成
- 住友生命と連携した絵画展の開催
→ 10/26～11/6 戸塚安行駅

沿線施設との連携の強化

埼玉スタジアム2002の活用促進及び利用客へのホスピタリティの充実

- ① 10周年記念埼玉B級ご当地グルメ王決定戦の共同開催及びシャトルバスの運行
→ 5/1 来場者 25,000人
- 全国キッチンカーグルメ選手権のPR協力
→ 駅構内ポスター、車内中吊り

その他沿線施設との連携・強化

- ① 川口緑化センターとの連携
→ 共催で盆栽イベント開催(麻布十番・戸塚安行)
- SKIPシティ国際Dシネマ映画祭のPR協力
→ 駅構内ポスター、車内中吊り

接遇サービスの改善

- サービス介助士資格取得
→ 5名

輸送力の増強

- ダイヤ改正の実施
→ 3/17 平日夕夜帯の電車の増発

利用者サービスの向上

■運輸雑収の増加

	22年度	23年度	
数値目標	100% (1,745百万円)	100.9% (1,760百万円)	➡
実績	97.1% (1,695百万円)	93.3% (1,642百万円)	
			31年度
			112% (1,956百万円)
			—

オリジナル グッズ販売

浦和レッズ等と連携したオリジナルグッズの企画・販売の強化

- **⑧** レッズコバトンシリーズ(9種類)
→ 売上 1,236万円
(2011ユニフォームぬいぐるみ 4種類、ICカードケース、リボンマグネット、ネックストラップ、Tシャツ、絵馬)
- **⑨** 鉄道むすめ(3種類)
→ 売上 73万円
(スタンプ、ステッカー、プレミアムフィギュア)

社有地等の 活用

既存店舗等の契約の見直し

- 東川口駅構内への店舗誘致(セブンイレブン)
→ 8/26～ 賃料収入 241万円

(2) 経費削減

■組織体制の見直し、人件費の削減

(凡例)	
①	正社員数
②	出向社員比率
③	プロパー社員比率
④	運輸収入に対する 人件費の比率

	22年度	23年度
数値目標	① 242人 ② 9.2% ③ 75.9% ④ 26.0%	—
実績	① 239人 ② 6.0% ③ 76.1% ④ 24.9%	① 235人 ② 3.4% ③ 77.9% ④ 24.8%



31年度	
①	240人
②	0.0%
③	85.0%
④	16.3%
—	

適正な社員
配置の追求

安全・確実な運行の確保を前提に、各部門の業務内容を精査し、適正な社員配置の追求

- 多客輸送時の体制(配置要員)見直し継続

人 件 費
の 削 減

計画初年度から28年度までの7年間で総額2億円の削減

- 社員のプロパー化の推進
→ 出向社員 6名減(前期末比)

■経費の削減

	22年度	23年度		31年度
数値目標	100% (2,948百万円)	100% (2,948百万円)	➡	103% (3,034百万円)
実績	104.0% (3,067百万円)	103.8% (3,060百万円)		—

備品、消耗品の購入費や
用品の抑制や
適正な管理

備品、消耗品の購入方法の工夫や効果的な発注ロットによるコスト削減に努めるとともに、適正な使用、管理の実施

- 事務消耗品等の一括購入(コピー用紙, インクカートリッジなど)
- 事務消耗品等の在庫管理

省エネルギーの徹底

電気使用量等の削減

- 節電対応などによる使用量の削減

契約の見直し

損害保険等の見直し

- 保険の解約・切替え等の実施

3. 平成24年度の取組(主なもの)

各事業について、効果・効率的なものは引き続き継続するとともに、以下の事業に取組むものとする。

(1) 増客増収

- 県・2市による沿線開発の推進サポート
- 沿線観光資源等の魅力発信
- 自社イベントの推進
- 企画乗車券の発売による沿線施設等へのアクセスの定着化
- 新商品開発による商品ラインアップの充実

(2) 経費削減

- 組織体制の見直し
- プロパー化の推進